

会 議 報 告 書

会議名	令和4年度第1回 三郷市地域包括支援センター運営協議会		
日 時	令和4年7月4日（月） 午後1時30分～2時50分	場 所	保健センター分室2階 第一会議室
次 第	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員紹介【資料1】</p> <p>3. 職員紹介</p> <p>4. 議事</p> <p>（1）審議</p> <p>①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について【資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5】</p> <p>（2）報告</p> <p>①令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画（市）【資料3-1、3-2】【参考資料】</p> <p>②令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画（センター）【資料4】</p> <p>③令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告【資料5】</p> <p>④令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告【資料6】</p> <p>⑤令和3年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要 【資料7】</p> <p>（3）その他</p> <p>①三郷市高齢者の暮らしちょこっとお手伝いガイド・通いの場マップについて</p> <p>5. 閉会</p>		
出席者	<p>【会 長】谷口聡</p> <p>【副会長】清水美代子</p> <p>【委 員】鈴木昌弘、小林真人、須藤政次、中村公三郎、山口典子、丸井明美</p> <p>【地域包括支援センター】長島所長（みずぬま）、樋口所長（早稲田）、門馬所長（ひこなり北）、石本所長（みさと中央）、磯所長（みさと南）</p> <p>【事務局】妹尾安浩（福祉部部長）、横田隆宏（福祉部副部長兼生活ふくし課長）、原山千恵（福祉部参事兼長寿いきがい課長）、中村一之（介護保険課長）、平山陽子（介護保険課長補佐）、箕輪陽子（長寿いきがい課長補佐兼長寿いきがい係長）、八巻絢子（長寿いきがい課地域包括係長）、高橋真一（長寿いきがい課主任）、岡本宇美（長寿いきがい課主任）、大友美慧（長寿いきがい課主任）、岡本斗希（長寿いきがい課主事）</p> <p>【傍聴人】0人</p> <p>【欠席者】寺田慎委員、岩井新一委員、柴田所長（しんわ）</p>		

●審議事項における確認事項

議事

（1）審議

①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について・・・・・・・・・・・・・・・・承認
(2) 報告
①令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画(市)・・・・・・・・・・・・・・・・承認
②令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画(センター)・・・・・・・・・・・・・・・・承認
③令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告・・・・・・・・・・・・・・・・承認
④令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告・・・・・・・・・・・・・・・・承認
⑤令和3年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要・・・・・・・・・・・・・・・・承認

令和4年度第1回三郷市地域包括支援センター運営協議会 議事内容

1. 開会
○谷口会長あいさつ ○妹尾部長あいさつ
2. 委員紹介【資料1】
○委員紹介
3. 職員紹介
○地域包括支援センター所長紹介 ○事務局職員紹介
4. 議事
(1) 審議
①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について【資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5】(非公開)
承認
(2) 報告
①令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画(市)【資料3-1、3-2】【参考資料】

事務局	<p>令和4年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画の基本目標と重点目標は、令和3年度第4回にて報告をしている。職員体制については、表の通りである。</p> <p>令和3年度重点目標の評価は今回初めての報告となる。</p> <p>1つめの感染症対策の継続、災害発生時や感染症流行期における業務継続体制の確立については、衛生物品等の備蓄や環境整備を進めるなど、爆発的な感染拡大の状況においても包括の皆さまにご尽力いただき、感染予防に努め業務の継続ができるように積極的に取り組むことができている。また事例はなかったが、職員の感染により事務所開設が困難な状況に陥った場合に備え、隣接する包括において応援する相互援助の仕組みを整えている。これらの取り組みは、今回の感染症に限らず今後も数々の感染症拡大に備える重要な経験として業務継続計画に反映する必要があると考えている。</p> <p>2つめの認知症早期発見・早期対応に資する取組みの強化及び認知症の普及啓</p>
-----	---

発等の施策の推進については、令和 2 年度から 65 歳以上の市民のかたを対象にした認知機能検査を実施している。令和 3 年度は、実施主体を包括に移行し、包括での検査に拡大している。民生委員のかたのご協力をいただき、個別による申し込みとしていたため検査実施数は 31 名、その内認知機能低下が認められたかたは 5 名いた。数としては少なかったが、各包括で検査が受けられる利便性の向上と早期発見ということについての、仕組みが構築できたと考えている。検査後の予防という部分で、コグニサイズ教室を検討しているが、これについて検査者数が少なかったことから、現行の介護予防教室の健康アップ教室にコグニサイズを取り入れる形で改善を図っている。認知症普及啓発の一環として、認知症サポーター養成講座の開催がある。例年、小学校や高等学校・各企業など様々な場所で活動しているが、コロナ禍において開催の協力を得ることが難しくなっていた。そのような中で、児童クラブや自治会・スーパーや薬局・医療機関などを対象に 15 回 354 名の認知症サポーターが養成された。今年度は縮小していた学校での講座開催も含め、地域での定期開催の機会を確保したいと考えている。

3 つめの高齢者の孤立化の防止及び介護予防・重度化防止対策の推進について、令和 2 年度は少しずつ地区サロン等の地域の通いの場が再開されてきたので、包括も参加したり、個別訪問という形での支援を重ねている。これらの活動については、十分な感染予防対策を講じた上で実施している。その一方、多職種を対象とした集合形式の事例検討会や地域ケア会議については、様々な職種の方々の感染予防の意識の高まりから積極的に集合して取り組むことは難しかった。年度の後半にかけて、Zoom 等の非接触型の手法を取り入れることや集合型にしても小規模短時間という形で開催するなど、各包括において感染状況を鑑みながら会議の目的が達成される方式で取り組むことができた。今後は、アフターコロナとして開催手法を臨機応変に選択しながら、積極的な取り組みをしていきたいと考えている。令和 4 年度重点目標の概要については、前回の会議で報告した通りである。

【資料 3-2】は三郷市が主催の包括を対象とした研修計画である。3 回予定しているが、これ以外にも虐待の事例検討会など、この 3 回以外でも研修の機会を設けていきたいと考えている。

【参考資料】圏域別高齢者数及び要介護認定者数については、令和 4 年 4 月 1 日現在の数値である。全域の高齢化率は 27.2%で、前年の 4 月 1 日時点が 27.1%だったため 0.1 ポイント上昇となっている。包括みずぬまは、前年度高齢化率は 30.1%だったので、0.8 ポイント増えている。包括早稲田は、前年度 28.8%だったので 0.6 ポイント増えている。この増え方は、他の 6 圏域に比べ大きく増えている。その一方、包括みさと中央は総人口が前年度より 747 人増えているので、高齢化率は前年度 17.8%、0.3 ポイント減っている。これが包括みさと中央の特徴である。他の包括は高齢化率が進んでいる中、包括みさと中央は若い世代の流入が多いので高齢化率は下がっている状況となっている。今までは団地を抱えている包括ひこなり北が高齢化率が高かったが、今後はさつき平や早稲田団地を抱える包括みずぬまと包括早稲田の大幅な高齢化が進んでいくと考

	られる。
谷口会長	何かご質問あるか。
山口委員	認知症機能検査の実施は全圏域で実施したのか。
八巻係長	その通りである。
山口委員	個別に声かけとあるが、包括の職員が個別に声かけを実施したのか。
八巻係長	個別の声かけは、民生委員のかたにご協力をいただきチラシの配布を個別に実施したり、包括の職員が地域に出た時に個別に声かけをした。 補足の説明として、今年度この事業は市の広報で周知し、一般公募としている。本日時点で 110 名の申し込みをいただいている。実際に 6 月から開催し、月に 1 度の開催予定である。
山口委員	【参考資料】を読んだが、表の見方を教えていただきたい。 私を感じたのは、包括ひこなり北が高齢化率が高いが、認定者数としては要介護 3・要介護 4 の高いかたが少ない。包括みさと中央は、高齢化率は低い却要介護 3～5 が多いという特徴があるのか。
谷口会長	包括みさと中央は要介護度が高いかたが多いが、理由は何かあるか。
八巻係長	包括みさと中央付近は、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅の施設がたくさん建っており、そこに入居しているかたも認定の数に反映するので介護度が重いかたの割合が増えている。
谷口会長	施設の運営に関わってくるので、包括との直接的な関わりは少ないと予想される。この表に関して、要支援 1・2、要介護 1・2 のかたが今後要介護 3～5 に上がってくるので、長い目で見るとこちらの数字も重要になってくる。今後もしっかり見ていきたい。 他に事務局の説明に対しご質問等あるか。
出席委員	(ご意見・質問なし。)
谷口会長	次の議題に移る。
②令和 3 年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価兼令和 4 年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画(センター) 【資料 4】	
事務局	令和 3 年度の評価について、令和 2 年度と同様に新型コロナウイルスの影響を受けているが、工夫をしながら周知や地域連携を行う圏域も見受けられた。広報誌の企画・構成の立て方について研修を行い、現在包括だよりをこのように作成している。包括だよりについて回覧するので、ご覧いただきたい。また、包括しんわと包括みさと南は共同で地域ネットワーク会議を実施している。包括ひこなり北は、介護認知症予防サロン「リバーサイドひこなり北」を令和 3 年度に立ち上げて、定期的で開催している。 令和 4 年度の計画について、各包括の運営方針をご覧いただきたい。今年度の目標として、各包括共通する所は下線を引いている。重点目標として、地域ケア会議や関係機関との連携の記載が共通箇所である。三郷市からも高齢者孤立防止や介護予防・重度化防止対策の推進として事例検討会や地域ケア会議の活用を示している。それに合わせて研修を企画し、包括の機能強化に取り組んでいきたいと考えている。

谷口会長	事務局の説明が終わったので質疑に入る。何かご質問等あるか。
山口委員	包括みさと南 6 ページ目の【令和 4 年度の方針】3. 精神科リエゾン医師とあるがどういうことか教えてほしい。
磯所長	精神科の中でも包括的に相談対応してくれる医師がいて、病院の中にそのような機能を持った医師が配属されている。そのような先生とネットワークの強化を図りたいと考えている。
山口委員	連携が取れる先生のことをリエゾン医師と呼ぶのか。
磯所長	はい。
谷口会長	補足等あるか。また、他にご質問等あるか。 包括しんわ【令和 4 年度運営方針】②コロナフレイルの早期発見のため民生委員との連携を図るについて、どのように工夫をしているのか聞きたかった。次の議題に移る。
③令和 3 年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告書【資料 5】	
事務局	<p>1. 総合相談支援事業①相談方法の内訳について、昨年度と比較して総合相談支援件数は約 400 件増加している。令和 2 年度が 2805 件であった。コロナ禍において減少していた相談が少しずつ戻ってきているのではないかと考えられる。</p> <p>②相談内容内訳は、身体機能低下と老々介護が増加しており、近隣トラブルと経済面は減少している。こちらも様々な要因があると思うが、新型コロナウイルスの影響により外出の機会が減少していることが、身体機能低下の相談増加に影響しているのではないかと考えられる。</p> <p>2. 権利擁護事業では、成年後見の対応が昨年 21 件に対し、今年度は 36 件に増加している。独居高齢者の成年後見制度申立て支援が、これに含まれている。この対応は今後益々増加が予想されており、権利擁護センター三郷市中核機関とともに地域支援の体制作りに取り組んでいる。</p> <p>3. 包括的・継続的ケアマネジメント事業の①介護支援専門員からの相談が令和 2 年度 306 件から今年度 241 件と減少している。</p> <p>5. 地域ネットワークの構築に関することでは、各包括共通する重点目標として上がっていた項目である。コロナ禍において、地域ケア会議は各包括 2 回程度開催していたものが 6 包括全体で令和 3 年度 4 回、令和 4 年度 3 回と大幅に減少した。今年度は、地域ケア会議の再開を含め活発化を図る。今後も新型コロナウイルスによる制限緩和により相談の増加や相談内容の変化も予想される。</p>
谷口委員	以上で事務局の説明が終わるが、ご質問等あるか。
清水委員	質問ではないが、昨年度との比較の説明があったので、合計の欄だけでも昨年度の数字が掲載されていると分かりやすい。今後お願いしたい。
谷口委員	その他にご質問等あるか。
丸井委員	5. 地域ネットワークの構築に関することの会議だが、会議の参加にバラつきがある。包括ひこなり北が 81 件と一番多いが、包括しんわは 4 件である。バラつきの理由を教えてください。

谷口委員	包括ひこなり北は、⑤地域の関係機関が主催する会議への出席が47件と多いがどのようなものがあるか。
門馬所長	団地を抱えている。団地の自治会や厚生部会に月数回参加しているため、会議数の多さとして表れている。
丸井委員	これだけバラつきがあると、中身がどのようなになっているのか気になった。
谷口委員	中身に関して把握できているか。
門馬所長	いくつか例を挙げると、団地の自治会の厚生部会では〇〇街区の見守りをしているという報告や定期的な近況の報告がある。様々な内容があるが、地域で開催しているサロンにも参加し、ネットワーク作りに力を入れている。包括の直近の活動内容や、身近に起きている消費者以外への啓発などを共有の場としている。
丸井委員	逆を言うと、包括しんわは会議がほとんどない。パンフレットを作って啓発していこうという動きは全包括見られるが、会議にこれだけバラツキがあると、会議の中身に地域のネットワーク作りをしたり、情報共有していくと何か有効な認知症ケアなどの手段が得られるのではないか。
谷口委員	ありがとうございます。 他にご質問等あるか。
須藤委員	1. 総合相談支援事業①相談方法内訳、包括みさと中央の訪問が1件と他に比べて少ないこと、包括みさと南の文書10件が他に比べ多いので理由を教えてください。
石本所長	まず電話で相談を受けて、訪問に行く場合は電話の件数にカウントし、訪問としてはカウントしていない。
谷口委員	逆を言うと他の包括は、電話で受けてその後訪問に行く場合は訪問としてもカウントしているということか。包括みさと南は33件と多いが、手順的にどのようなになっているか。
磯所長	情報提供として医療機関から上がってくる場合は、初回は訪問でカウントしている。
谷口委員	医療機関から上がってくるものが多いということか。 若干数え方の違いかもしれない。毎回起きる議論だが、基準がないので各包括によって数え方やどこに入れるかの違いがある。厳密ではない気がする。
須藤委員	基準を作ってもらったほうがいい。同じ人から何度も電話がかかってきても1件と数えるのか。訪問はコロナ禍ということもあるが、相談があったら様子を見に行くというアウトリーチ含め必要だと思う。訪問という数が実際に抱えている人数で、どこの包括も変わらず同じような数字が出てくるのが望ましいと思う。 包括みさと南の文書とはどのようなものか。
磯所長	メールで相談があった場合は、リスク管理のためにメールで返信はしていない。相談が手紙で届くことがある。初回FAXで関係機関から相談もあるが、文書でカウントしている。
須藤委員	ありがとうございます。

谷口会長	他にご質問等あるか。
出席委員	(ご意見・質問なし。)
谷口委員	次の議題に移る。
④令和3年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告【資料6】	
事務局	1 圏域ずつの説明は省略する。資料の通りとなっている。
谷口会長	ご意見等あるか。
丸井委員	包括ひこなり北と包括みさと南に質問がある。包括ひこなり北のその他業務委託が当初見込み額より随分支出が多いが、その理由を教えてください。
門馬所長	要支援の利用者を受入れてくれる委託先がほぼない状態であったが、直近数カ月になって3社ほどになり、委託件数も増え、当初低く見積もっていた金額より増えた。
丸井委員	今年度も同じような予算か。
門馬所長	はい。委託先がこのまま続いてくれると良い。
丸井委員	包括みさと南の介護予防支援が当初の予算より増額しているが、その理由を教えてください。
磯所長	委託に関する方針を変え、委託数を増やしている。それで増額になっている。
丸井委員	了解した。これは、年度が変わることはやむを得ない、予測できないことなのか。何百万単位で増えるというのは普通のことなのか。
谷口会長	三郷市としてどのような見解か。
八巻係長	各圏域の詳しい方針まではお答えしかねるが、包括みさと南に関しては今までは包括の職員の中で介護予防ケアプランを対応していたが、外部に委託をして包括としての地域づくり活動に重点を置いていくという活動にシフトしたので、当初の予定よりも大幅に委託料が増額になった。また、包括みさと南は所長が交代し、これまでの方針と切り替わったことも要因である。
丸井委員	その他業務委託と介護予防業務委託とは何かを見た時に、他の包括は何百万単位でなかったのか、どの程度のものなのか、また地域のバラつきと関係ないものなのか質問させていただいた。 他の包括も外部に委託先があれば委託をして、地域づくり活動をしたいと思うのではないかと感じ質問をした。
谷口会長	要支援者をどのように地域の居宅介護支援事業所に委託するのかこれまでも議論してきたが、ケアマネジャーが三郷市は少ない。居宅介護支援事業所がどれだけ要支援者を受入れてくれるかパワー依存している。全体的にあまり乗り気でない居宅介護支援事業所が多いのが実情である。包括の努力によってこれだけ委託先が増えているのは、評価すべきことである。各包括も業務がパンク状態なので、チャレンジしていきたいと思っているのではないかと読み取れる。
丸井委員	むしろ増えたほうが良いということか。
谷口会長	体制としてはそうである。包括の運営方針もあるので一概に言えないが、全体として見るとそのように感じる。予算に関して毎年意見が出るが、今年も良い議論ができたと思う。

	次の議題に移る。
⑤令和3年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要【資料7】（非公開）	
承認	
3. その他	
①三郷市高齢者の暮らしちょこっとお手伝いガイド・通いの場マップについて	
箕輪課長補佐	<p>2冊の冊子についてご紹介をする。高齢者の在宅生活を支える民間事業者によるサービスや住民・ボランティアによる支え合い活動の情報をまとめた「三郷市高齢者の暮らしちょこっとお手伝いガイド」という冊子と地域の人々の身近な交流の場の情報をまとめた「通いの場マップ」を三郷市社会福祉協議会との共同で作成した。</p> <p>これらの冊子は、地域で暮らす高齢者やその支援者がちょこっと手伝ってほしいと思う時や近くに交流場所がないか探している時の参考としてお役立ていただける他、地域の社会資源を把握し必要な支援を見つけることで、新たな支援の創出に繋げることを目的として作成した。特に高齢者を支援するかが活用できる冊子を意識して、必要な情報を整理して作成しているので、ご高覧いただきたい。冊子は三郷市のホームページに掲載している他、長寿いきがい課窓口や三郷市社会福祉協議会の窓口、また市内公共施設でも配布している。包括・三郷市内の介護支援事業所・ケアマネジャーについては配布している。</p>
事務局	<p>この冊子の件でご質問等あるか。</p> <p>今年度初めての取り組みで、資源整理を実施した。どういうサービスが使えるか疑問に思っていたかたが多くいたと思うので、支援に活用していただければと思う。</p>
事務局	鈴木委員、遅れて出席のためご紹介をする。
事務局	<p>他にご質問等ないので、本日の会議を終了する。</p> <p>今回の報酬については、7月20日水曜日を予定している。</p> <p>次回の会議は、11月14日月曜日を予定している。詳細が決まり次第、事務局より通知をする。</p> <p>閉会の言葉を清水副会長よろしく願います。</p>
5. 閉会	
○清水副会長あいさつ	